

【教科研資料】

2021年11月4日（木）1校時 5A教室

授業者 HRT 坂本 香織

ALT 藤本 ヴェロニカ

つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業づくり（3年次）

～子どもが友だちの表現に「価値」を見いだすことができるようにするための教師の働きかけを通して～

外国語科における「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」について

小学校外国語科（以下、外国語活動を含む）では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指している。外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方とは、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」と小学校学習指導要領（平成29年告示）解説に示されている。子どもがこのような見方・考え方を働かせてコミュニケーションをする過程を通して、「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」について述べる。

子どもは、体験的に外国語の言葉や表現に慣れ親しみ、コミュニケーションをする中で、まず、相手の話していることを受け止め、何を言おうとしているのかを理解しようとする。そして、「自分のことを伝えるにはどの言葉や表現を使えばいいかな」と、自分のことや思いに合う内容を考えていく。その中で、相手意識をもち始め、「よりよく伝えるにはどんなことに気をつけたらよいのだろう」と、ジェスチャーや表情、リアクションなどの非言語によるコミュニケーションの手段も用いて伝え方を工夫しようとする。その際、よりよいコミュニケーションをしている友だちを学習のモデルとして見ることで、友だちとつながりながら自分がコミュニケーションをする姿を客観的にふり返り、友だちのコミュニケーションのよさを取り入れ、表現の高まりを目指そうと工夫していく。さらに、コミュニケーションをする中で、「どうして～なのかな?」「もっと知りたいな」という思いが生まれ、リアクションを交えながら感想を伝えたり、さらに質問をして会話を続けようとしたりし始める。このように、子どもは主体的に友だちや学習対象とつながり、以前の自分と今の自分を比較することで自分の変容に気づいていく。そのような過程を通して知的な深まりが生まれ、コミュニケーションをする楽しさやよさを実感していくのである。

以上のことから、外国語科での「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」とは、子どもが、友だちと気づきや考えを共有しながら、課題解決に向けたよりよい方法を見出し、それをを用いて互いに表現し合う中で、変容した自分を自覚して達成感を味わい、外国語でコミュニケーションすることを楽しんでいる授業であると考えられる。

1. 子どもを「共通の土台」にのせるための働きかけ

○目的をもち、必然性のあるコミュニケーションをすることができる活動場面を設定する

パターン化された表現をリピートさせたり練習させたり、順番に発話するだけでは、子どもの意欲を高めることはできない。子どもの「やってみたい!」という課題解決への意欲を高めるためには、子ども自らが思考し、「話したい」「友だちの考えを聞いてみたい」と思うようなコミュニケーションをすることができる必然性のある活動場面を設定する必要がある。

本時では、子ども一人一人が将来こんな町に住みたいという思いを込めて作った「My Future Town

カード」を用いて、自分のお気に入りの施設に友だちを案内したり、どうしてそのような町にしたのか伝え合ったりする活動場面を設定した。「My Future Town カード」を作る際、子どもには、既存の絵カードから選んだ施設（12 施設）と、My home（1 軒）、既存の絵カードにある施設以外で自分がどうしても町に置きたい施設（1 施設）で構成するように伝えた。「My Future Town カード」を作る子どもの様子を見てみると、「ぼくは、野球が好きだから、baseball stadium の横を park にして、野球が楽しめるようにしたいな」「私は、パンが好きだから、家の前に bakery があったら嬉しいな」など、自分の趣味や好みなどを考慮しながら作っている子ども、「お母さんはよく買い物に行くから、supermarket が近くだと便利かな」「隣におじいちゃん、おばあちゃんの家があったら、いつでも会えるな」と、家族のことを思いながら作っている子どもの姿が多く見られた。子ども一人一人の思いや願いが詰まっているからこそ、「自分の町のことを話したい」「友だちはどうしてこんな町にしたのか聞きたい」という思いをもって、コミュニケーションをすることができるのではないかと考える。

本時は、道案内だけにとどまるのではなく、既習表現である「Do you like ～?」「I like ～.」「Can you ～?」「I can ～.」などの表現を用いながら、好みやできることなどを伝え合うことを通して、自分が町に込めた思いを伝えたり、友だちに対する理解も深めたりすることができる時間にしていきたい。

○めあてに対する共通認識や具体的なイメージをもたせる

どの子どもが、友だちや学習対象とつながりながら課題解決していくことができるようにするために、まずは、めあてに対する共通認識をもたせることが必要であると考え。例えば、「○○を工夫して伝え合おう」という学習のめあてで考えてみる。「工夫する」という言葉だけでは、その姿に対するイメージは個々によって様々であり広範囲に及ぶ。そこで、教師は、「工夫する」とはどういうことか」と問いかけ、「詳しく話す」「具体的に伝え合う」などの言葉を引き出していく。更に、「“詳しく” “具体的に” とはどういうことか」と一歩踏み込んだ問いかけをすることで、「～が好きだからと理由を伝える」「相手に、…ができるかどうか聞く」など、「詳しく」「具体的に」の内容を明確にしていく。そうすることで、「工夫するってそういうことか」「その言い方を使ったら相手に詳しく伝えたり聞いたりできそうだな」という見通しをもたせ、課題解決への意欲を高めていく。

本時は、「My Future Town カード」を用いて、自分の町に込めた思いが伝わるように紹介する時間である。まずは、「町に込めた思い」に着目させ、「この町にはどんな思いが詰まっているの?」と問いかけ、「好きなものが町にあること」「楽しい気分になれる」など、町に込めた子どもの思いを引き出していく。その後、「それを伝えるには、どんなことを話したらいいかな?」と問いかけ、「自分の好きなものを伝える」「どうして好きかも話す」など、話をするときの内容を明確にしていく。そうすることで、めあてに対する共通認識や具体的なイメージをもたせ、どの子どもが「自分の町に込めた思いが伝わるようにするためには、どのような表現を加えたらいいかな?」と思考することができるようにしていく。

2. 子どもが友だちの表現に「価値」を見いだすことができるようになるための働きかけ

○学習形態の工夫をする（Do→Learn→Do again）

外国語では、単元の終末に、発表や友だちとのやり取りなど、それまでに慣れ親しみ input してきた言葉や表現を用いて output する活動場面を設定する。これまでは、ALT と HRT とで、デモンストレーションをおこない、グッドモデルを見せることで活動への見通しをもたせることもあった。デモンストレーションをおこなうことは、子どもにとって「このようなやり取りをすればいいのか」と、見て理解することができる有効的な手段であると言える。しかしながら、完全な形を見せてしまうと、子どもが工夫する余地がなくなってしまう。そのような状況では、子どもが思考し、考えたことを表現する姿は見られない。よって、友だちのよいところを見つけて、自分のコミュニケーションに取り入れ、より

よくしていこうとする姿が見られることはないであろう。そこで、「Do (やってみる) →Learn (中間交流をする) →Do again (中間交流での学びを生かして再度やってみる)」の学習形態をとる。やってみることから生まれた疑問や困り感を、友だちとつながりながら解決し、友だちのよさ(「価値」)を、自分のコミュニケーションにいかしていくことができるような学習形態をとることで、学習意欲を高めながら、本時のゴールの姿に近づいていけるようにしていく。

本時では、まず、自分のお気に入りの場所を友だちに伝え、友だちをその場所まで案内するという内容のデモンストレーションを子どもに見せる。その後、「お気に入りの場所を伝えて案内したら、自分の町のおすすめポイントは十分伝わる？」と問いかけた上で、めあてに対する共通認識や具体的なイメージをもたせていく。子どもに考えさせる余地を残すのである。そして、「Do (やってみる)」の場面において、Activity 1をおこなう。ここでは、「言いたいことがあるけど…どう言ったらいいの…？」という子どもの困り感が出てくることが予想される。子どもは、やってみる活動を通して、分からないことやできないことに出会い、「困る」という経験をするのである。この困り感こそが、子どもの学習意欲をさらに高める動力になると考える。困るからこそ、「どう言えばいいのかな？」という思いをもつことができるのではないだろうか。次に、「Learn(中間交流をする)」場面において、Activity1を通して見つけた、自分が困ったことや友だちのいいところを全体で共有する。この時、教師は、「それが言えたら町に込めた思いが伝わりそうだねえ。どう言えばいいのかな？」と、困り感をもっている子どもの気持ちに寄り添い、周りの友だちやALTに聞いて、解決できるようにしていく。そうすることで、みんなで解決していこうとする雰囲気を作ったり、言えなかったことがいけないのではなく、次に英語で言ってみようという気持ちにさせたりしていく。また、コミュニケーションをしていて見つけた友だちのよい姿(「価値」)についても共有していく。この時、なぜ良いと思ったのか聞き、その理由を明らかにすることで、「そういう言い方や反応をすれば、そんな風に思うんだ」と、話す側と案内される側のそれぞれに違う立場の見方から、その価値について客観的に理解し、自分のコミュニケーションの取り方について再考することで、最後の「Do again (中間交流での学びを生かして再度やってみる)」(Activity2)の場面において、自分のコミュニケーションにいかしていくことができるようにしていく。

○自分のよりよくなった姿(変容)に気付かせる

子どもが「できた！」という達成感をもち、「外国語でコミュニケーションをすることが楽しいな」と思えるようにするためには、子どもに、自分のよりよくなった姿(変容)に気づかせたり、実感させたりする必要があると考える。

本時では、「Do again (中間交流での学びを生かして再度やってみる)」(Activity2)の場面において、子どもが、中間交流で共有したことをもとに、友だちの意見から見出した「価値」を自分がコミュニケーションをする時にいかそうとしていることを見取り、「よく伝わっているよ！」「〇〇さんの意見を取り入れたんだね。いいね！」と返していく。子どもは、自分がコミュニケーションをする姿を客観的にみることができないため、教師や友だちから認められたり、褒められたりすることで、「今の自分は、いいコミュニケーションができているんだ」と、自分がよりよいコミュニケーションをしていることを感じることはできないのではないかと考える。また、「〇〇さんの意見を取り入れたらいいと気付いたことがいいよね！」など、友だちの意見に「価値」を見いだしていることへの価値付けもおこないたい。そうすることで、友だちの意見を取り入れることのよさを実感させていきたい。学習の最後には、「どんなところがよくなったと思うか」という視点で振り返りをさせる。そうすることで、子どもが、授業の前と後での自分を比べ、自分の変容に気づくことができるようにしていく。

1. 単元名 Where is the post office? (東京書籍 NEW HORIZON 5 Unit5)

2. 指導観

本単元では、自分の知りたい場所や位置をたずねたり、相手を案内したりするために、「Where is ~?」「Go straight for ~ block(s).」「Turn left/right at the ~ corner.」「You can see it on your left/right.」などの表現を使って、場所や位置のたずね方や答え方などについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったりすることができるようにしていく。また、道案内については、子どもたちが、日常生活の中で外国の人に会ったときにたずねられたり、将来海外へ行ったときたずねたりすることが想定される場面であり、単元の終末に、オリジナルの町を作成し、道案内をする活動をゴールに設定することで、目的をもって学習することができる単元である。

本学級の児童は、ALTの発音をよく聞きながら、真似をして一生懸命声に出したり、友だちやペアで活動をする時には、分からなくても友だちに聞いたり、困っている友だちにそっと言い方を教えてあげたりする姿が見られる。しかし、全体の前での発表となると挙手が減ったり、ひとまとまりの表現を使う発表ややり取りになると声が小さくなったり、消極的な面も見られる。これは、「間違ったら恥ずかしい」という恐怖や、「友だちが自分のことをどう思っているだろう?」という不安が原因ではないかと考えられる。また、自分が言いたいことを伝えるのに精一杯で、相手が言っていることに反応を返しながら、つながりのある対話を続けることについては、まだまだ不十分である。子どもの負担にならないように、既習事項に繰り返し触れたり、できることを少しずつ増やしたりしながら、相手に伝える内容を子ども自身が考えたり、どの言葉や表現を使えばよいかを自分で選んで使うことを経験させていく必要がある。

単元の指導にあたっては、まず、音声を聞かせたり映像を見せたりしながら、場所をたずねたり、答えたりするやり取りのおおよその内容を理解させていく。その後、本単元で使用する語彙や、「Where is ~?」「Go straight for ~ block(s).」「Turn left/right at the ~ corner.」「You can see it on your left/right.」など、場所をたずねたり、相手を案内したりする表現に慣れ親しませていく。最後に、「将来こんな町に住みたい」という思いを込めた、「My Future town カード」を作り、友だちに紹介する活動をおこなう。

本時は、「My Future town カード」を用いて、自分の町に込めた思いが伝わるように紹介する時間である。まず、HRTとALTとで、本時の活動に最低限度必要なデモンストレーションを見せることで、活動への見通しをもたせつつ、子どもが思考できる余地を残すようにする。その後、めあてを提示し、自分の町にどのような思いを込めたのか、また、それ伝えるには、どのようなことを話したらいいのか問いかけ、話の内容を明確にし、めあてに対する共通認識や具体的なイメージをもたせていく。実際にコミュニケーションの活動をする場面では、まずは、やってみること(Activity1)を通して、言いたいことがあるけど、言い方が分からない状況を敢えて経験させる。そうすることで、「どう言えばいいのか?」と、表現を知りたいという子どもの気持ちを引き出していく。その後、中間交流をおこない、全体で共有する。ここでは、分からなくて困ったことはなかったか問いかけ、困り感をもっている子どもの気持ちに寄り添った上で、みんなで解決していこうとする雰囲気を作ったり、言えなかったことがいけないのではなく、次に英語で言ってみたいという気持ちにさせたりしていく。また、友だちの姿でよかったところを聞き、その理由を明らかにしていくことで、話す側と案内される側それぞれに違う立場の見方から、その「価値」について客観的に理解し、自分のコミュニケーションの取り方について再考することができるようにしていく。そして、中間交流で共有したことをもとに、再度、コミュニケーションをする場(Activity2)を設ける。ここでは、友だちの意見から見出した「価値」を自分がコミュニケーションをする時にいかそうとしていることを見取り、価値付けていく。また、友だちの意見に「価値」を見いだしていることへの価値付けもおこなうことで、友だちの意見を取り入れることのよさを実感させていく。最後に、「どんなところがよくなったと思うか」という視点で振り返りをさせることで、子どもが、授業の前と後での自分を比べ、自分の変容に気づくことができるようにしていく。

3. 単元の見目

- 自分の知りた場所や位置をたずねたり、相手を案内したりするために、場所や位置のたずね方や答え方などについて、短話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったりすることができる。
- 外国語の背景にある文化に対する理解を深める。
- アルファベットの活字体の大文字・小文字を書くことができる。

4. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○<知識> Where is ~?, Go straight for ~block(s)., Turn left/right., You can see it on your left/right.およびその関連語句などについて、理解している。 ○<技能>場所や位置のたずね方や答え方などについて、聞き取る技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の知りた場所や位置をたずねたり、相手を案内したりするために、場所や位置のたずね方や答え方などについて、短話の概要を捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の知りた場所や位置をたずねたり、相手を案内したりするために、場所や位置のたずね方や答え方などについて、短話の概要を捉えようとしている。 ○外国の背景にある文化に対する理解を深めるために、日本在住の外国出身の人について、短話の概要を捉えようとしている。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○<知識>アルファベットの活字体の大文字・小文字について、理解している。 ○<技能>アルファベットの活字体の大文字・小文字を識別したり、その名前を発音したりする技能を身に付けている。 		
話すこと[やり取り・発表]	<ul style="list-style-type: none"> ○<知識> Where is ~?, Go straight for ~block(s)., Turn left/right., You can see it on your left/right.およびその関連語句などについて、理解している。 ○<技能>場所のたずね方や答え方などについて、Where is ~?, Go straight for ~block(s)., Turn left/right., You can see it on your left/right.を用いて、お互いの情報や考えなどを伝え合う技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の知りた場所や位置をたずねたり、相手を案内したりするために、場所や位置のたずね方や答え方などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、親外の情報や考えなどを伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の知りた場所や位置をたずねたり、相手を案内したりするために、場所や位置のたずね方や答え方などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。 ○外国の背景にある文化に対する理解を深めるために、ピクトグラムでの地域紹介について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <知識>アルファベットの活字体の大文字・小文字について、英文の語順などを理解している。 <技能>アルファベットの活字体の大文字・小文字を書く技能を身に付けている。 		

5. 指導と評価の計画 (全8時間扱い)

時数	○学習内容	評価			
		知	思	主	□評価規準 (評価方法)
1・2	○音声を聞いたり、映像を見たりしながら、場所をたずねたり、答えたりするやり取りのおおよそを理解する。	○		○	<u>主(聞)</u> 自分の知りた場所をたずねたり、相手を案内したりするために、場所のたずね方や答え方などについて、短話の概要を捉えようとしている。 (行動観察・ワークシート)
		○			<u>知(聞)</u> Where is ~?, Go straight for ~ block(s)., Turn left/right., It's by/in/on/under ~., You can see it on your left/right. およびその関連語句などについて、理解している。 (行動観察・ワークシート)
		○			<u>技(聞)</u> 場所や位置のたずね方や答え方などについて、聞き取る技能を身に付けている。(行動観察・ワークシート)

3・4	○Where is～?, Go straight for ～ block(s)., Turn left/right., You can see it on your left/right.など, 道案内の表現や関連語句に慣れ親しむ。	◎	○	<p><u>思(聞)</u> 自分の知りたい場所をたずねたり, 相手を案内したりするために, 場所のたずね方や答え方などについて, 短い話の概要を捉えている。(行動観察)</p> <p><u>知(話・や)</u> Where is ～?, Go straight for ～ block(s)., Turn left/right., You can see it on your left/right. およびその関連語句などについて, 理解している。(行動観察)</p> <p><u>技(話・や)</u> 場所や位置のたずね方や答え方などについて, Where is ～?, Go straight for ～ block(s)., Turn left/right., You can see it on your left/right. およびその関連語句などを用いて, お互いの情報や考えなどを伝え合う技能を身に付けている。(行動観察)</p> <p><u>思(話・や)</u> 自分の知りたい場所をたずねたり, 相手を案内したりするために, 場所や位置のたずね方や答え方などについて, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, お互いの情報や考えなどを伝え合っている。(行動観察)</p>
5	○「My future Town カード」を作って, ペアで道案内をする。		◎	<p><u>思(話・や)</u> 自分の知りたい場所をたずねたり, 相手を案内したりするために, 場所や位置のたずね方や答え方などについて, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, お互いの情報や考えなどを伝え合っている。(行動観察)</p>
6 本時	○「My future Town カード」を用いて, 自分の町に込めた思いが伝わるように紹介する。		◎	<p><u>思(話・や)</u> 自分の知りたい場所や位置をたずねたり, 相手を案内したりするために, 場所や位置のたずね方や答え方などについて, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, 親外の情報や考えなどを伝え合っている。(行動観察・ワークシート)</p> <p>○ <u>主(話・や)</u> 自分の知りたい場所や位置をたずねたり, 相手を案内したりするために, 場所や位置のたずね方や答え方などについて, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。(行動観察, ワークシート)</p>
7	○世界の地図や標識について考え, 世界と日本の文化に対する理解を深める。		○	<p><u>主(話・や)</u> 外国の背景にある文化に対する理解を深めるために, ピクトグラムでの地域紹介について, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。(行動観察, ワークシート)</p>
8	○英語と日本語の違いを知り, 世界と日本の文化に対する理解を深める。		○	<p><u>主(聞)</u> 外国の背景にある文化に対する理解を深めるために, 日本在住の外国出身の人について, 短い話の概要を捉えようとしている。(行動観察, ワークシート)</p>

6. 本時の指導について

(1)目 標 「My future Town カード」を用いて, 自分の町に込めた思いが伝わるように紹介する。

(2)評価規準 思(話・や) 自分の知りたい場所や位置をたずねたり, 相手を案内したりするために, 場所や位置のたずね方や答え方などについて, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, 親外の情報や考えなどを伝え合っている。(行動観察・ワークシート)

主(話・や) 自分の知りたい場所や位置をたずねたり, 相手を案内したりするために, 場所や位置のたずね方や答え方などについて, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。
(行動観察, ワークシート)

(3)展 開 (6/8)

○学習活動 ・主な児童の反応	○教師の働きかけ □評価規準 (評価方法)	
	HRT	ALT
<p>1.Greeting & Warm up ○挨拶をする ○Let's song, チャンツ</p> <p>2.Review ○建物の言い方を振り返る</p> <p>3.Today's goal ○デモンストレーションを見る</p>	<p>○ALT や子どもと挨拶をしたり、歌やチャンツを歌ったりし、楽しく学習する雰囲気をつくる。</p> <p>○これまでに学習した食材の絵カードは事前に黒板に掲示しておき、再度確認しておきたい言葉や表現はないか子どもにたずねる。</p> <p>○ALT と最低限度必要なデモンストレーションを見せることで、活動への見通しをもたせつつ、子どもが思考できる余地を残すようにする。</p>	<p>○子どもがつまずいている言葉や表現の正しい発音を聞かせる。</p> <p>○HRT とデモンストレーションをおこなう。</p>
<p>自分の町に込めた思いが伝わるように、紹介しよう！</p>		
<p>○課題を把握する ・おすすめは、自分の好きな施設がたくさんあるところかな。だから、好きなものを伝えたい。 ・安全な町がいいと思って、警察を家の近くに置いたから、理由を伝えられたらいいのかな。</p> <p>4.Activity (1)Activity1 ○自分の町に込めた思いが伝わるように、紹介する ・言い方が分からないな…。 ・どう言えばいいのかなあ…。</p> <p>(2)中間交流 ○友だちとコミュニケーションをするときのよい点や、よりよくするための改善点を見出す ・言い方が分からずに困った。 ・～って言えばいいんじゃないかなあ。 ・なるほど！そう言えばいいの！ ・○○さんは、どうして好きなのか理由も言っていたから、おすすめの度合いが伝わってきたよ。 ・言い方に抑揚があったら、気持ちが伝わりやすい。 ・好みを聞いてくれたから、相手のことを大事に思っているんだなあと思えた。</p>	<p>○どのような思いを込めて作ったのか、また、それ伝えるには、どのようなことを話したらいいのか問いかけ、話の内容を明確にしていく。そうすることで、めあてに対する共通認識や具体的なイメージをもたせる。</p> <p>○友だちのいいところを見つけながら聞いたり、相手が話しやすくなるように配慮（反応）したりするように伝える。</p> <p>○まずは、やってみることを通して、言いたいことがあるけど、言い方が分からない状況を取って経験させることで、「どう言えばいいのかな？」と、表現を知りたいという子どもの気持ちを引き出す。</p> <p>○分からなくて困ったことはなかったか問いかけ、困り感をもっている子どもの気持ちに寄り添った上で、みんなで解決していこうとする雰囲気を作ったり、言えなかったことがいけないのではなく、次に英語で言ってみようという気持ちにさせたりしていく。</p> <p>○友だちの姿でよかったところを聞き、その理由を明らかにしていくことで、話す側と案内される側それぞれに違う立場の見方から、その「価値」について客観的に理解し、自分のコミュニケーションの取り方について再考することができるようにする。</p>	<p>○子どもから出された意見に対して表現の確認をし、板書する。</p> <p>○発音や言い方に困っている子どもを見取り、支援をおこなう。</p> <p>○困っている子どもが知りたいと思っている表現を確認する。</p>

<p>(3)Activity2</p> <p>○自分の町に込めた思いが伝わるように, 紹介する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○さんの言っていたことを加えて伝えてみよう! ・みんなで話し合ったことを使って, 上手に伝えたい! <p>5. Reflection</p> <p>○本時のふり返しをする</p>	<p>○中間交流で共有したことをもとに, 友だちの意見から見出した「価値」を自分がコミュニケーションをする時にいかそうとしていることを見取り, 価値付けていく。</p> <p>○友だちの意見に「価値」を見いだしていることへの価値付けをおこなうことで, 友だちの意見を取り入れることよさを実感させていく。</p> <p>思(話・や) 自分の知りたい場所や位置をたずねたり, 相手を案内したりするために, 場所や位置のたずね方や答え方などについて, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, 親外の情報や考えなどを伝え合っている。(行動観察・ワークシート)</p> <p>主(話・や) 自分の知りたい場所や位置をたずねたり, 相手を案内したりするために, 場所や位置のたずね方や答え方などについて, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。(行動観察, ワークシート)</p> <p>○「どんなところがよくなったと思うか」という視点で振り返りをさせることで, 子どもが, 授業の前と後での自分を比べ, 自分の変容に気づくことができるようにしていく。</p>	<p>○英語で言い方に困っている子どものサポートをしたり, 積極的にコミュニケーションをしようとしていることを価値付けたりしていく。</p>
--	---	--